

## 2019年12月26日/JFEスチール東日本製鉄所（京浜地区・川崎扇島）工場見学報告書

横浜国大部会  
佐々木隆雄(日本製鋼所OB)

12月26日は幸いなことに予報で雨の可能性もあること伝えていましたが終日曇りで、雨が降らなかっただけでこの工場見学は何か満足できるものになるだろうという気がしていました。事実参加した中国からの留学生コ・テイギさん(横浜国大国際社会学府)の感想文をこの報告書に含めていますので一読いただくと同感していただけたと思います。

参加者は留学生18名(キャンセル者は4名、学業の都合、体調不良等の理由。朝寝坊で間にあわないという理由の学生2名いましたが冬季休業の初日で多少の気のゆるみがあったのかと推察)、会員8名の計26名でした。今回で3回目の見学となりましたが、参加留学生の大半はこれまで同様修士以上の学生でした。

見学コースはバスで原料受け入れ岸壁/原料ヤード—原料前処理工場/石炭コークス炉&焼結炉(鉄鉱石+石灰石)—高炉(銑鉄製造)—転炉(鉄から鋼へ)—圧延工場/熱間圧延または厚板圧延—製品岸壁を通過して出発場所に戻る(製鋼工場と圧延工場はバスを降りて工場内で見学)のが通常です。今回は原料岸壁が台風の影響で一部修復中であることと製鋼工場の出鋼作業に合わせることとなり、見学ルートはコークス炉、焼結炉が並立する横の道を通り高炉—熱間圧延工場(薄板)を工場内で見学—製鋼工場(転炉で鋼に変換)で溶融鋼を次工程で半製品であるスラブ製造のための連続鑄造設備へ移送するため容器に転炉から移す出鋼プロセスを見学—元の場所にバスで戻るという変則コースとなりました。いつもはバスの窓から遠くにあるコークス炉、焼結炉を眺める感じだったのが間近で見て、また炉からの廃棄物のリサイクル前の置き場、製鋼工場で使用するスクラップ鋼の置き場も見られ製鉄/製鋼工場では馴染みの光景も今でも必要ということがわかり何か懐かしい気もしました。

以下に上述した中国からの留学生コ・テイギさんから寄せられた感想文(日本語・原文のまま)を添付しますので一読ください。

### 見学感想

コ・テイギ(中国) 大学院国際社会学府

2019年12月26日に、JFEスチール東日本製鉄所の工場見学に行ってきました。東日本製鉄所は広くて、さまざまな施設があり、鉄道の線路まで敷かれています。原料ヤードを見た時、一日で使う原料の量にびっくりしました。日本国外から輸入した原料も多くて、良い国際関係の大切さも体感しました。熱間圧延工場にて、鉄の塊が一瞬に長くて薄くなり、その速さに驚きました。その後、転炉も見ました。工場内にほとんど人はおらず、数名がコントロール室で監視をしており、機械化と自動化のすばらしさを実感させてもらいました。

初めて重工業の現場を見ましたけど、工場内はきれいで意外でした。無煙、無塵の日々を250日も続けて、環境に優しい製造過程を実現できるように工夫したでしょう。コントロール室内の黒板に従業員が毎日見つけた設備や工程の改善点が書かれています。さらに、工場内安全に関するスローガンをいっぱい貼って、企業が従業員の安全を最優先にしていることが目に見えています。

今回の見学を通じて、東日本製鉄所規模の巨大さと技術力、それを支えている従業員の素晴らしさを実感しました、とてもいい経験でした。

以上

